

# タイ旅行記～

三重大学生物資源学部森林生物循環学研究室 3年

林 優衣

2011年10月31日から11月9日にかけてタイのチェンマイにブナ科樹木の枯死被害をもたらすカシノナガキクイムシの採集に同行させていただきました。タイに渡航することも調査に行くことも初めてで、英語も喋れない私には不安しかありませんでした。しかし今回同行させていただいたことで多くの事を学ぶことが出来たと思います。3年でこのような経験をさせていただいたことに深く感謝いたします。

出発前。タイでは洪水被害が深刻であり、バンコクではとても滞在できる様子ではありませんでした。在タイ日本大使館からバンコクへの渡航は「延期をお勧めします」とされており、乗り継ぎをする空港が閉鎖されないかと前日まで行けるか不安でした。ただ渡航するだけでも不安で押しつぶされそうなのに、そのうえ洪水被害。振り返れば一番不安だったのは渡航前でした。



到着した次の日である11月1日、2日、4日、7日、8日に調査を行いました。チェンマイ大学の先生方に教えていただき、カシノナガキクイムシが採集できそうな木に6トラップ、5調査地点で行いました。調査地点によって採集量は異なりましたが私が想像していたよりも多く採集出来ていました。見たことのない植物が多く山を歩くのも楽しかったです。

調査地にはサクラがあり、自身の研究のために、採集を行わせていただきました。サクラがタイにあるとは知らず、急な採集であったため、分離では諦めていましたが、先生方にご協力いただきチェンマイ大学にあるクリーンベンチを使わせていただけ、分離でき

ました。クリーンベンチはUVライトがありませんでしたが日本のものと相違なかったです。海外では全く違うものが使われているだろうと考えていたので驚きました。逆に日本と相違ないだろうと考えていたサクラは、タイでも「サクラ」といいますが、花が咲くのは12月ごろで色は濃いピンクと日本とは異なっていました。チェンマイ大学の方に説明していただいた研究室でも温度の調整法や虫や試料の保存法が全く異なっていました。虫は透明標本のよ





うに液体に使っており、外の手洗い場の上に置かれていました。

PDAなどはビンに入っており、上部が紙にくるまれて常温で保存されていたのが印象的でした。

調査がない時には大学の先生方に色々な場所に連れて行っていただきました。町中に点在していた由緒ある寺院では金が好まれているらしく、その多くが金色に輝いていました。仏像は勿論のこと、寺院全体が金色であり、近くで見ると圧巻でした。またどの寺院にも曜日を司る仏像があり、生まれた曜日によって異なっていました。その他にも寺院に彫刻された動物や礼拝の仕方など、文化の違いを痛感しました。



今まで海外に行った時にはガイドさんがいて、会話は買い物の時に簡単な英語を喋るだけで十分でしたが、今回、英語の重要性を感じました。タイでの研究内容を説明していただいた時にはなにも理解できず、情けない気持ちになりました。また、チェンマイ大学の先生方が話しかけてくださる言葉もわからなく、もしわかってもし返事することができませんでした。今後のためにも英語を勉強したいと思いました。

今回の海外調査で多くのことを学ぶことができました。また海外とは思えないほど快適に過ごすことができ、滞在中、毎日が楽しかったです。今後、学んだことを自身の勉学に役立てていきたいと思えます。

大変お世話になりましたチェンマイ大学の先生方、またこのような機会を与えてくださった三重大学森林生物循環学研究室の伊藤進一郎教授、松田陽介准教授に深く感謝いたします。